

厚生常任委員会活動レポート

開催日：令和5年10月26日(木)

開催場所：1・2号委員会室

町民生活部

1. 住民生活・環境衛生事業について

先の有限会社広栄様との懇談を踏まえ、改めて部局の考えを聴取しました。

【主な質疑】

委員：ごみ収集の現状とこれからの取組についてお聞かせください。

担当：ごみ収集業務については、40～50年前から戸別収集を実施していることを、ステーション化にすることで悪い影響が及ぶ可能性があります。計根別地区、郡部、白樺町内会のようにステーション方式を町内会単位で取り組んでいくべきだとは思いますが。年間120日の休日を導入している企業が多い中、広栄さんは年間68日の休日となっていて人が集まらないのは明らかで、収集業務の労働条件についても女性も働きやすい環境にするべきであるとは考えます。焼却施設については4町広域処理施設となっており、現施設の継続か新施設での稼働か調査委託中であり、もうすぐ結果が出る頃となっています。

委員：標津では女性の作業員もいると聞いています。休日対応も含め募集しやすくなるような契約について検討していただきたい。

委員：広栄さんから町に対し、5年前から環境改善への要望をしていますが、近年考え方は変わりましたか？

担当：非常にデリケートな問題として捉えています。今まで手を付けなかったのではなく、付けられなかったのが現状です。動くのであれば今であると行政も認識しています。

委員：広栄さんとの懇談では、あと10年は辛抱できるかもしれませんが、その先は見えないとの話がありました。他の受託業者がいなければ町で直営になりますが、直営では成り立たないと思います。町内会のモデル地区を増やしていき、高齢者や歩けない方などには、戸別収集も取り入れていくべきでは？

担当：町民の方は現状をまだ把握できていません。利便性を考慮しながらも、持続可能なものへ変革が必要ですが現状は厳しい。委託や指定管理を含めて検討が必要ですが、まずはステーション方式を検討していることを広報し周知していくことが必要だと考えます。

委員：2024年度の働き方改革も視野に週休2日は早急に実現すべきです。委託料も含め迅速な対応をお願いします。

担当：日数だけではなく、従業員の人数の問題、収集日の問題もあり、早急な実現は厳しい状況ですが検討を重ねます。

委員：土曜日の収集を休むと他の曜日の収集業務が大変になると広栄さんは話しており、当面は厳しいがステーション化へしていくことが望ましいとのことでした。白樺町内会ではステーションが何か所あり、何軒で利用していますか？

担当：地区の世帯は約 400 世帯、全部で 63 か所程度町が設置し、5～7 軒で 1 ステーションを利用しています。ステーションごみ箱の設置場所について家の前は嫌だと、現地でもめることもあります。

委員：白樺町内会では戸別収集はありますか？高齢者の対応はどのようになっていますか？

担当：戸別収集は実施していないためステーションをその方の家の前にしています。

委員：町内会に加入していない方は、ごみをどのようにしていますか？

担当：ごみ箱は施錠していないため、ステーションを利用しています。

委員：ごみの問題について町民と話していますか？

担当：平成 30 年、令和元年のごみ料金改定時に町内会等へステーション化の提案はしてみましたが、大半が厳しいとの回答でした。一部了承していた方もいました。

委員：戸別収集が厳しい現状とそれに伴うステーション化の必要性を知らせていく必要はありませんか？

担当：シンポジウム、フォーラム等の開催も一つですが、ごみ収集問題について特集を組むなど広報していかなければいけないと思います。

委員：町民と話し合いが必要では？

担当：丁寧な説明が重要で、なぜステーション方式へ移行しなければならないのか、メリット、デメリットについて時間をかけて説明していくことが必要と考えます。

委員：議会と委託業者の懇談は今までありませんでした。問題意識を共有し、ステーション方式の必要性を感じました。ステーション方式のメリットを町民へ提唱することや生ごみを分別し、冬でも使えるコンポスト（300 万円）を設置し、生ごみの入っていないごみ袋を安くするなど、生ごみの分別についても提起します。

担当：生ごみは燃えるごみ全体の 1 割未満で多いのは紙や衣類となっています。分別の細分化も検討しています。